

横浜市環境創造審議会 第4回雨水浸透機能促進方策検討部会 議事録	
議 題	1. 第3回雨水浸透機能促進方策検討部会議事録について 2. 雨水浸透機能促進方策のあり方について〔報告書〕(案) 3. その他
日 時	平成21年10月23日(月) 10:00~12:00
場 所	関内中央ビル 3A 会議室
出席委員	河野 正男、檜垣 宏子、岡 泰道、吉中 保(4名) 敬称略
欠席委員	長岡 裕、高見澤 邦郎(2名) 敬称略
開催形態	公開
資 料	1 議事次第 2 資料13 第3回雨水浸透機能促進方策検討部会議事録(案) 3 資料14 雨水浸透機能促進方策のあり方について〔報告書〕(案)

開会

事務局挨拶

議事

1 第3回雨水浸透機能促進方策検討部会議事録について

(事務局)

資料13により議事内容を説明

(河野部会長)

特に意見がないようなので、この議事録を確定します。

2 雨水浸透機能促進方策のあり方について〔報告書〕(案)

(事務局)

資料14により報告書(案)を説明

(河野部会長)

課題の水害リスクの増加で、「下水道の未整備地域だけでなく、整備が完了している都心部などでも水害対策強化が求められている」とあるが、重要としている都心部を先に書いて、強く表すべきではないか。

(檜垣委員)

鶴見川流域では60mm対応の緑の着色部分もありますが、着色のない白い部分を重点的に進めるというニュアンスでしょうか。50mmでは足りなく、それを強化すべきと書かなければと思います。

(岡委員)

下水道の未整備地域という表現は水質に結びつくので、何mm対応が未整備と書いたほうがわかりやすい。また、後半の整備が完了している都心部に対策の強化が求められるとは、超過降雨対策の意味であれば、具体的に書いたほうが誤解がないと思います。

(事務局)

表現を改めます。

(岡委員)

雨水浸透の現状の水収支の図にある「地表面流出」は「表面流出」でないと、意味が違ってきます。

(河野部会長)

「はじめに」のページにある整理すべき課題のうち、「雨水浸透機能強化の目標設定」については、最後のページで目標とする整備量などを今後の検討課題としており、ここで答えていると理解していいですか。

(事務局)

本来、目標設定は数字で示せば一番わかりやすいが、民間にもお願いしてやっていく事業であるため、強制的な進め方が難しく目標数字を出しづらい側面があります。協議の場までは制度で誘導できますが、最終的には個人の判断となるため、数字は出していません。

(河野部会長)

前回の議事でも、通常は目標年次や数値目標があるが、今回は機能強化が目標という理解でいいか確認しています。しかし、課題に対しては不明確であり、このような理由で目標設定が困難との記載も見当たらないため、目標設定がしにくいので、機能強化を代わりとしたというような表現ができればと思います。

(檜垣委員)

この案は、主に雨水浸透ますを早くたくさん設置するための報告書だという印象です。農地や樹林地がどんどん減っており、緑を担保する方策を目標に入れることはできないかと考えているので、それに対し非常に現実的な目標だと思います。

(事務局)

雨水浸透機能促進ということなので、浸透ますの話が多くなっていますが、地域特性に応じた施策立案のページには、環境創造局が進める緑アップ計画について書いており、これを進めることで、緑被率31%を維持していくことを目指しています。

(岡委員)

最後のページの、整備量の設定を将来の課題とした部分で、それについては、部会で定量的にある程度検討した背景があることを盛り込んだほうがいいのではないかと思います。

また、設置が主眼となったため、維持管理手法については書いてないが、持続可能なシステムを構築するために、現時点で書ける範囲で入れておいたほうがよいと思います。

(事務局)

市民協働ということで、住民の方にも管理していただくことになり、どういう形がよいかまだまとまっていませんが、維持管理が大切というような内容を盛り込みます。

(河野部会長)

13ページの「確実な普及促進のための制度拡充」で、宅地内浸透ますに対する助成制度をより活用しやすい制度としていくとあり、前回の議事で、雨水浸透は公益性が強いので、公費負担を充実させるべきという議論があったことを受けていると思いますが、少し表現が弱いような気がします。

(事務局)

今回、雨水浸透ますを標準仕様にするとしていますが、それでどれだけ設置が増え、それらに対してどの程度の助成ができるのか、いま明確にお示しできません。具体的には答

申をいただいて検討しますが、変えていくという意味は表わそうとしてこのような表現になっています。

(河野部会長)

雨水浸透ますは公益性が非常に強いので、助成制度を充実させるということを入れ、ここがポイントだと言いたい。部会案としては、制度を充実していくとか、公費負担を高めるというような内容にしたいと思います。

(岡委員)

奉仕的な精神で導入することは難しいので、メリットの面でプラスとなるような仕組みを作れば、かなり急速に普及するのではないかと思います。税制や管理部署もそれぞれで困難ですが、そこが目標にあってもいいかと思っています。

(岡委員)

報告書の案にもあるが、「見える化」という視覚的にイメージできる形の広報は、非常に重要だと思います。

(吉中委員)

行政が率先して進める取り組みの部分で、設置を原則としながら、さらに、市がこれだけ取り組んでいるんだとPRすることを加えられればいいと思います。そのようなPRをいかに行うかをより明確にしてもいいのではないかと思います。

(岡委員)

最後のページの「計画に位置づけるための継続的な定量化の検討」は、かなり踏み込んで書いているが、一般の人にはわかりにくい。要するに、治水計画上の位置づけですが、あまり専門的に書いたのがかたくなったと思います。明確な書き方ですが、誤解や判りにくさが残らなければよいと思います。

(事務局)

最終的に定量化を目標としますので、ここに書き込みましたが、もう少し易しい書き方で整理します。並行して進めている下水道の計画基準見直しの中で、雨水浸透にもある程度役割を持たせ、進めていこうと考えていましたので、その思いが文面に反映しました。

(河野部会長)

出ました意見を確認します。8ページの「水害リスクの増加」では、未整備地区の整備目標などを用いてわかりやすく書くという意見がありました。13ページの「行政の率先垂範と積極的な事業連携」では、行政の取り組みのPRが必要で、どこに書き込むかという意見がありました。それから、雨水浸透は公益的機能という認識を表し、助成制度の充実などが書ければよいとの意見がありました。

また、雨水浸透ますを設置することによるメリットを書き込めないでしょうか。15ページの計画への位置づけの為の検討の文面をもう少しわかりやすくし、同じページ後段に持続可能な維持管理手法が大切という視点を書き込むという意見がありました。

「雨水浸透機能強化の目標設定」については、なかなか明確には書きにくいことは理解しますので、このままとします。

開会